



## Chapter 2

## 第2章 笛吹市の景観の 現状と課題

# 第2章 笛吹市の景観の現状と課題

## 1

### 笛吹市の概況

#### (1) 笛吹市のあらまし

本市は、甲府盆地の東よりに位置する美しい景観と“桃・ぶどう日本一の郷”、石和・春日居温泉郷で知られる県内有数の観光都市です。

本市は、首都東京からほぼ100km圏、甲府盆地の東よりに位置し、“桃・ぶどう日本一の郷”、石和・春日居温泉郷を擁する樹園都市、観光都市として知られています。

地勢的には、笛吹川に沿って広がる平坦地を中心に、南側に広がる緩やかな丘陵地、北側の秩父山系から連なる大蔵経寺山や兜山、南側の御坂山地に囲まれたまとまりのある盆地地形となっています。平地部と山麓部は、市街地や集落地が形成され、それを取り囲むように果樹地帯が山麓まで広がっています。

市内には、温泉街や桃・ぶどうなどの果樹園に囲まれた美しい樹園景観をはじめ、豊かな自然、貴重な植物群落、古代の遺跡群や社寺、鎌倉街道や若彦路等の古道、文学碑、古民家や特徴のある農村景観、甲府盆地を一望する優れた眺望など、豊かな景観に恵まれ、温泉施設、大規模な公園、登山やハイキングコース、博物館、ワイナリーなどの観光レクリエーション施設も数多く分布しています。

本市への広域からの交通アクセスは、JR中央本線（石和温泉駅、春日居町駅）、中央自動車道（一宮御坂IC）があり、東京都心と約90分で結んでいます。

広域幹線道路では、国道20号、奥多摩方面を結ぶ国道411号、秩父方面を結ぶ西関東連絡道路や国道140号、河口湖方面を結ぶ国道137号が通り、本栖湖を経て静岡県富士宮方面を結ぶ国道358号や南アルプス市方面を結ぶ新山梨環状道路（南部区間）が近接するなど、重要な交通の要衝となっており、県内の主要な観光エリアを連絡しています。

今後、市内を新山梨環状道路（東部区間）やリニア中央新幹線の建設が予定されており、広域的な交通アクセスの一層の向上と新たな地域の発展が期待されています。

■ 笛吹市の広域的な位置



第2章

## (2) 笛吹市の特色

### 桃・ぶどう日本一の郷

本市は、土壌が肥沃で排水がよく、日照時間が長いことに加え昼夜の気温差が大きいなど、果樹栽培に適した土地で、日本有数の果樹地帯となっています。

特に、桃・ぶどうは栽培面積、収穫量、出荷量いずれも全国市町村の中で一位を誇っており、果樹園に囲まれた特色ある農村景観、ワイナリーや観光農園等の地場産業など、名実ともに「桃・ぶどう日本一の郷」としてこれまで歩んできました。

歴史ある日本の果樹栽培を先導してきた先人の偉業をたたえ、全国に誇れるすばらしい果実郷を守り、さらに発展させることを誓い、平成17年10月に「桃・ぶどう日本一の郷」を宣言しています。

### 桃源郷の美しい風景、豊かな自然と優れた眺望

本市は、笛吹市の名の由来となる笛吹川とその支流が創り出した肥沃な土地の恩恵を受け、市街地や集落地周辺から山麓一帯には桃やぶどうなどの果樹園が広がっています。春にはまち全体が一面ピンク色に彩られ、桃源郷と称される本市特有の美しい景観が展開します。

また、北側に大蔵経寺山や兜山、南側を御坂山系の山々に囲まれ、森林や水辺など豊かな自然に恵まれています。特に、芦川の源流域には「ニホンスズラン」が自生しており、日本でも有数の群生地となっています。

そのほか、山麓からは甲府盆地の美しい夜景や南アルプスの山々が眺められるほか、御坂山地の新道峠は富士山を眺める絶好の眺望場所として知られており、豊かな自然環境や景観を活かした観光レクリエーション資源も数多く分布しています。

### 古代ロマンあふれる郷～「甲斐国・千年の都」

本市の歴史は古く、旧石器時代から人々が生活し、古代では甲斐国の政治・文化の中心地、中世は武田家ゆかりの地、江戸時代は石和が宿場町となり、甲州街道、若彦路、鎌倉街道、秩父路の往来の要衝として栄えてきた特色ある歴史があります。

市内には縄文時代の釈迦堂遺跡や一の沢遺跡など全国的に名の通った遺跡のほか、岡銚子塚古墳や竜塚古墳、姥塚古墳等の古墳時代の遺跡など、多様で貴重な歴史的・文化的資源が数多く分布しています。

特に、山梨県最古の寺である寺本廃寺跡や国衙、国府、甲斐国分寺跡・国分尼寺跡、甲斐国唯一の御厨である石禾御厨が存在したと伝えられるなど、本市は古代の甲斐の国成立期から1519年の武田館の甲府移転までの約千年の間、甲斐国の政治・文化の中心として大きな役割を担ってきました。このため、本市は平成21年10月に「甲斐国千年の都笛吹市」を宣言しています。

また、市内には、釈迦堂遺跡博物館、山梨県立博物館が立地し、隣接する甲府市中道地区には、山梨県立考古博物館が立地するなど、山梨県の歴史・文化の拠点エリアを形成しています。

### 温泉と季節を彩る祭りイベント

全国屈指の温泉郷である石和温泉、春日居温泉は、山梨県の観光宿泊拠点として四季を通じて多くの観光客を迎え入れており、近津用水のせせらぎや桜並木が続く温泉街、恵まれた温泉資源を活用した公営温泉施設や足湯広場は、市民や観光客の癒しの場、憩いの場として親しまれています。

また、春の「桃の花まつり」、「桃の里マラソン大会」、「川中島合戦国絵巻」、「すずらの里祭り」、「笄形焼き」、夏の「大文字焼き」、「笛吹川石和鵜飼」、「笛吹市夏祭り花火大会」など、季節を彩る祭り・イベントが毎年行われ、多くの人々が訪れています。



### (3) まちの成り立ち

本市の歴史は古く、旧石器時代から人々が生活し、古代では甲斐国の政治・文化の中心地、戦国時代は武田家ゆかりの地、江戸時代は石和が宿場町となり、若彦路、御坂路、秩父路の往来の要衝として栄えてきた特色ある歴史を有しています。

#### ① 歴史的な特色

##### ■ 原始・古代

本市の歴史は古く、笛吹の地域に人々の営みが認められるのは、旧石器時代の約3万年前であるといわれています。縄文時代から弥生時代においては、狩猟・漁労や木の実を採集する段階から、米作りの段階へと進みました。4世紀後半から、岡銚子塚古墳が築かれ、その後も竜塚古墳、姥塚古墳、経塚古墳等が築かれており、曾根丘陵に大きな勢力が存在していたことがうかがえます。

また、縄文時代の积迦堂遺跡や一の沢遺跡からは貴重な遺物が数多く出土し、重要文化財に指定されているほか、笛吹川の低地部から扇状地一帯にかけて数多くの埋蔵文化財包蔵地が分布しています。



・岡銚子塚古墳

##### ■ 奈良・平安時代

8世紀の山梨は、甲斐国といい、山梨・八代・巨麻・都留の4郡からなり、その中心は、国府、国衙等の地名があることから、本市の春日居・一宮・御坂地区付近にあったといわれています。

市内には甲斐国最古の寺である寺本廃寺跡や甲斐国分寺・甲斐国分尼寺跡、甲斐国唯一の御厨跡等が存在したと伝えられるなど、この地域は古代甲斐国の政治・文化の中心地でした。甲斐国分寺・甲斐国分尼寺跡周辺は、現在、発掘調査が進められています。



・甲斐国分寺跡

##### ■ 鎌倉・室町時代

12世紀に入ると、公家による国家の体制は揺らぎ、その中から台頭してきたのが武家でした。そして、天承元年（1131年）頃には、甲斐国に源義清・清光の親子が入り、甲斐源氏を興しました。その後、甲斐源氏の武田氏や小笠原氏、南部氏などは後世まで繁栄しました。

石和から甲府に移った武田氏は、16世紀に戦国大名として発展し、甲府につつじヶ崎館や要害城を築き、ここを拠点に四隣経略を進め、天下統一を目指しました。

戦国大名武田家の祈願寺であった慈眼寺や大蔵経寺等には、武田家ゆかりの資料が残されており、また、山梨岡神社の太々神楽は「武田信玄出陣の神楽」とも呼ばれ、戦勝を祈願し、奉納したと言われています。



・大蔵経寺

### ■ 江戸時代

天正10年(1582年)の武田氏滅亡後の甲斐国は、織田、豊臣、徳川と支配が移り、江戸幕府の下で甲府藩(国中)・谷村藩(郡内)が成立しますが、享保9年(1724年)には幕府直轄地となりました。19世紀に入ると、幕藩体制の矛盾から各地に一揆が多発し、天保騒動が起こりました。

市内には、古代からの官道である「御坂路(鎌倉街道)」、「若彦路」、雁坂峠を越え秩父に通じる「秩父往還」等が通り、古来より数多くの人馬の往来がありましたが、この時代には甲州街道が整備され、石和は宿場町として栄えました。



・御坂路(鎌倉街道)

### ■ 明治時代

山梨県の峡東・東八代地域は、ぶどうの栽培に適した風土で、その生産量は日本一を誇り、本市も山梨ワイン製造の一翼を担っています。明治時代にはワイナリーが建設され、ワイン製造においても130年の歴史があります。この時代に造られた日本初のヨーロッパ型地下ワイン発酵槽は、古いワイン造りの様子を伝える貴重な遺構として、登録有形文化財に指定されています。

また、明治40年8月に大水害があり、笛吹川はそれまで近津用水から平等川の位置を流れていましたが、流路を南側の鶉飼川の位置に大きく変え、今日に至っています。



・水害で土砂に埋まった石和中心部

### ■ 現代

この時代には、桑畑からぶどう畑や桃畑への樹種転換が進展し、現在の桃源郷と称される一大果樹地帯の基礎ができました。また、文化面では、俳壇で巨匠飯田蛇笏・龍太が活躍し、文壇では深沢七郎が『笛吹川』を、小川正子が『小島の春』を執筆しています。

昭和36年には石和町で温泉が湧出し、その豊富な湯量を活かして石和・春日居温泉は一大温泉郷として発展してきました。昭和57年には、中央自動車道が全線開通するなど、都心からのアクセスが非常に良くなり、温泉と果実の郷として、全国にその名を知られるようになりました。



・温泉湧出時の様子

## ② 笛吹市の誕生

本市は、明治時代の初めは、百近くの村から構成されていましたが、その後、明治・昭和の大合併など幾多の変遷を経て、平成16年10月12日、石和町、春日居町、一宮町、御坂町、八代町、境川村の5町1村が合併し、笛吹市が誕生しました。さらに、平成18年8月1日には芦川村を編入合併し、現在の笛吹市となりました。

各地域には、現在も往時の地名が数多く残されており、旧町村時代から育んできた暮らしや文化が今なお息づいています。



## (4) 自然環境

本市は周囲を山々に囲まれた盆地地形で、日本でも有数のニホンズランの群生地をはじめ、四季折々の変化を感じさせる豊かな森林や里山、水辺資源、多様な動植物など、豊かな自然と優れた眺望景観に恵まれています。

### ① 気 候

気候は、盆地特有の内陸性気候で、温暖ではあるが夏と冬の温度差が大きく、年平均気温13.7度、年平均降水量は1,050mm程度となっています。

### ② 地 形

本市の地形は、芦川地区を除き、北に秩父山地の最南端となる大蔵経寺山や兜山、南に御坂山地の山々に挟まれ、甲府盆地の一部を形成しています。大きく標高約250m～300mの沖積平地、緩やかに傾斜する標高約300m～400mの山麓の扇状地、標高約400m～600mの丘陵地、標高約600m～1,500mの山地で構成されています。

芦川地区は、御坂山地の主稜と黒岳から西方に派生する支稜に挟まれた東西に細長い谷地形となっています。

### ③ 水 系

河川・水系では、芦川地区を除く市域の大部分は、中央を南西に流れる笛吹川水系に属しており、山地から流れる日川、金川、浅川、境川、平等川等の河川が笛吹川に合流しています。

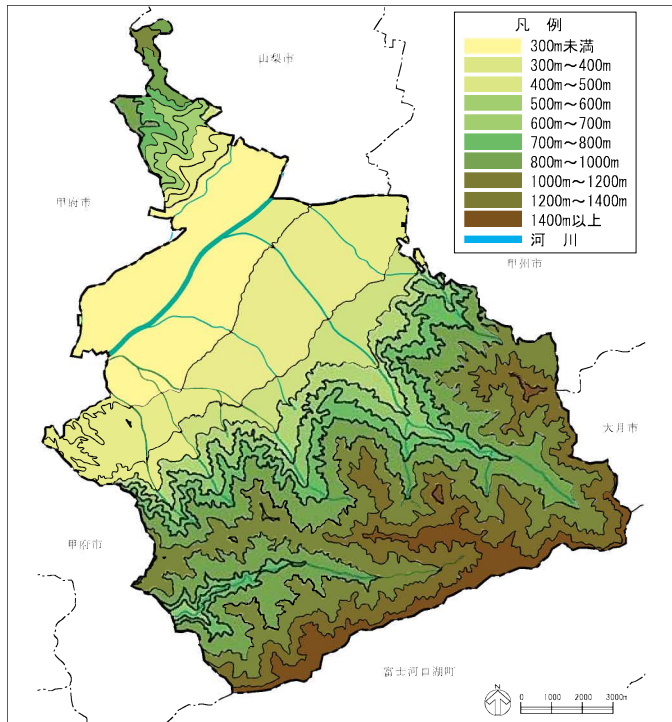
また、芦川地区を流れる芦川は、市川三郷町を経て富士川に注いでいます。

低地部の石和・春日居地域の市街地周辺では、近津用水をはじめ、小さな河川や水路が縦横に流れ、水の都とも言うことができます。

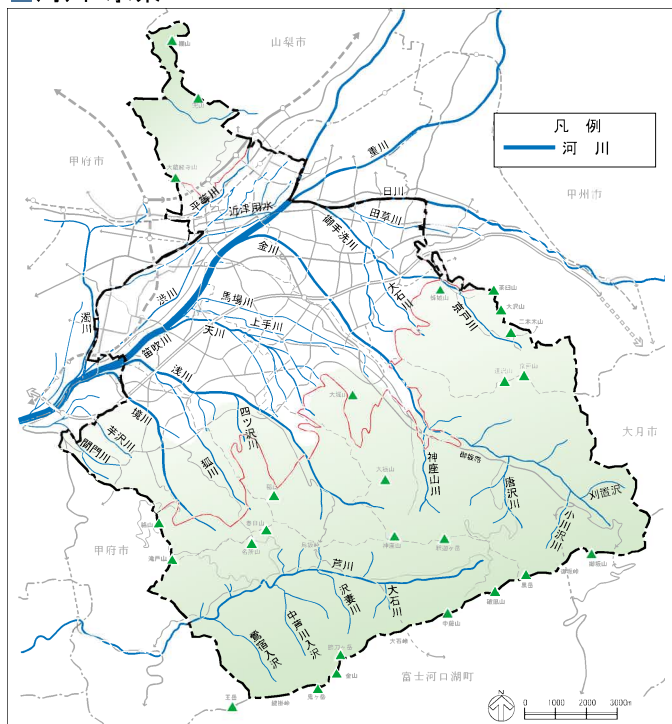


・ 笛吹川

#### ■ 笛吹市の地形



#### ■ 河川・水系



#### ④ 植 生

本市は市域面積の約6割が森林で占められており、平地部から山麓にかけては広大な果樹園が分布しています。

御坂山地から丘陵部一帯は、クリーミズナラ群落が多く分布しているほか、山地から丘陵地に移行する地域では、農用林としての利用が図られてきたクヌギ・コナラ群落やアカマツ植林、スギ・ヒノキ植林が分布しています。

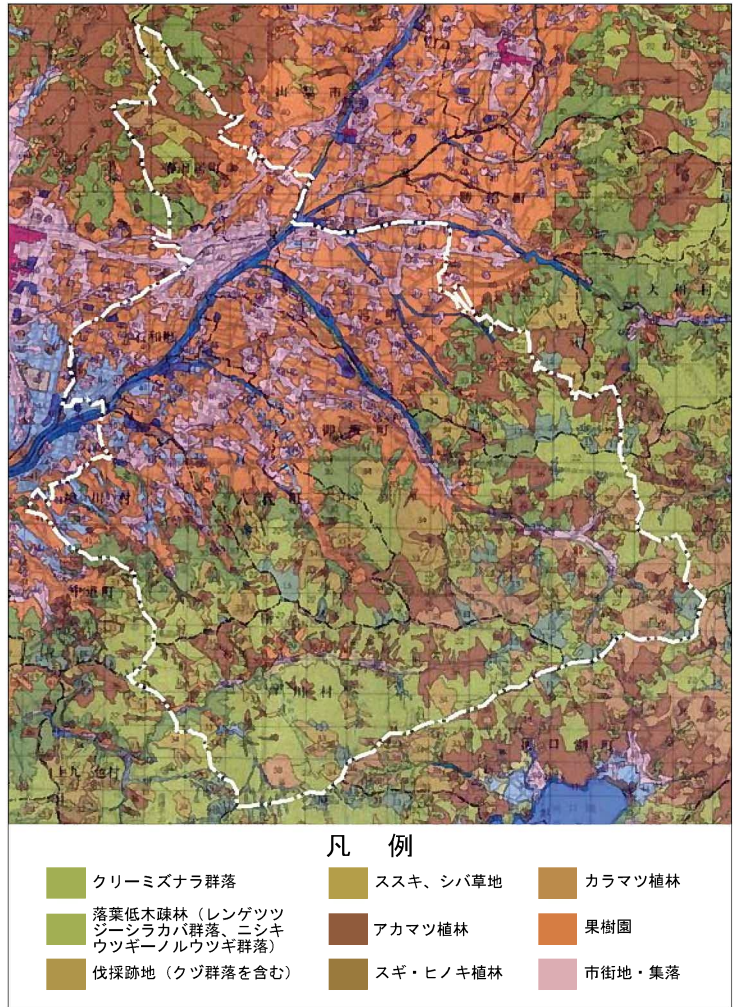
また、大蔵経寺山周辺については、アカマツ植林を主体にこれらの植生が混在しています。

特徴ある植生としては、芦川源流域の日本でも有数のニホンズランの群生地、黒岳周辺に分布するブナの原生林があり、これらは「山梨県自然環境保全条例」に基づき、それぞれ「自然記念物」および「自然保存地区」に指定されています。

また、滝戸山の山頂付近にあるミズナラ林は「やまなしの森林百選」に選定されています。

(山の位置は本計画書5ページ参照)

#### ■ 笛吹市の植生



(出典：「土地利用保全図 [土地利用・植生現況図]」山梨県、平成14年)

#### ⑤ 動 物

本市には、豊かな自然環境を反映して多様な動物が生息しており、ほ乳類では、御坂山地の上部などでツキノワグマが目撃されているほか、ホンドザル、ニホンイノシシ、ニホンジカ、国の特別天然記念物のニホンカモシカ、ホンダタヌキ、ホンドギツネ、ホンドテン、ホンドリタチ、ニホンアナグマ、ハクビシン、ホンドリリス、ノウサギ、ホンドモモンガ、ヤマネなども広い範囲で生息が確認されています。

鳥類では、森林性の鳥類が豊富で、クマタカをはじめ、ハチクマ、コノハズクなど絶滅危惧種・準絶滅危惧種に選定されている種の生息が確認されている他、オオルリ、ウグイス、ヤマガラ、コガラ、シジュウカラ、キジバト、チョウゲンボウ、ノスリ、カケス、ヤマセミ、ヤマドリなどが生息しています。

笛吹川などの河川では、マガモ、コガモ等のカモ類、コサギ、アオサギ等のサギ類、トビ、ヒバリ、ムクドリ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイなどがみられます。

このほか、多様な両生類、昆虫類、魚類も多く生息しており、御坂地区の檜峯神社のコノハズク生息地や境川地区のハコネサンショウウオ生息地が、県の天然記念物として指定されています。



・ ツキノワグマ



・ オオルリ



・ コノハズク

注) \* オオルリは、笛吹市の鳥に選定されています。



## (5) 土地利用

市域の約6割が森林、約8割が自然的な土地利用で占められ、緑豊かな樹園都市を形成していますが、近年は森林の荒廃、農地の減少、遊休農地の増加が進んでいます。

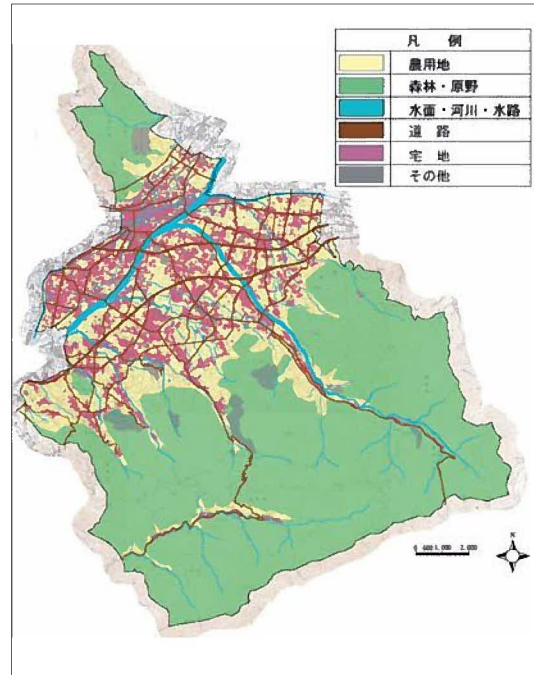
### ① 土地利用の概況

本市の土地利用は、森林を中心に市域の約8割が自然的な土地利用（森林、河川、農地等）となっており、緑豊かな樹園都市を形成しています。

市街地は、石和温泉駅周辺～甲府バイパス周辺に形成されており、郊外部でも、各支所周辺の幹線道路沿いなどに小規模な市街地が形成されています。

平地部から山麓一帯には果樹園を中心に広く農地が分布しており、農地に囲まれる形で多くの集落地が形成されています。

■土地利用の概況



(資料：「笛吹市国土利用計画」)

### ② 森林の現況

本市の森林は、市域面積の約6割を占め、本市の景観を構成する重要な要素ですが、近年、人手不足等により荒廃が進んでいるところもみられます。

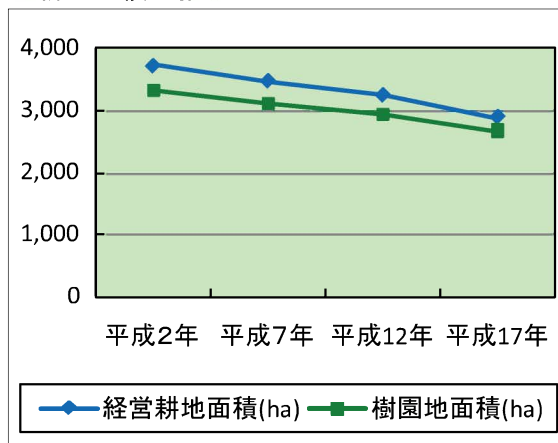
また、アカマツ林については、地球温暖化の影響などによりマツクイムシの生息域が北上し、被害の増加がみられます。

### ③ 農地の現況

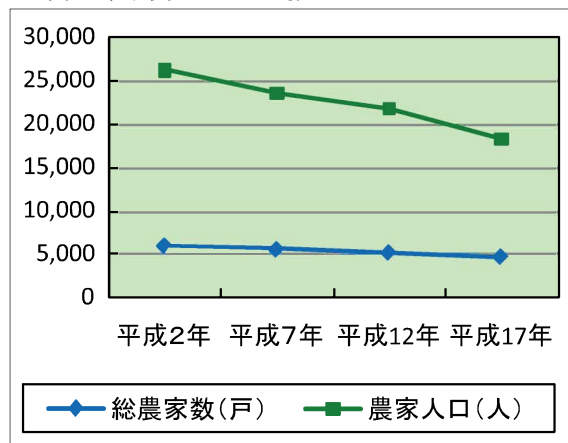
本市の農地の約9割以上は、桃やぶどうを中心とした果樹園で占められており、平地部から山麓一帯に広く分布しています。桃・ぶどうは栽培面積、収穫量、出荷量いずれも全国一であり、名実ともに「桃・ぶどう日本一の郷」を誇っています。

しかしながら、近年の農地や農家の推移をみると、農家数、農家人口の減少に伴って、経営耕地面積や樹園地面積は減少し続けています。特に、遊休農地については、平成7年から平成17年の10年間で、44haも増加しているなど、本市の産業はもとより、緑・景観を支えている農地が減少傾向にあります。

■耕地面積の推移



■農家数、農家人口の推移





## (6) 景観に関する法令適用状況

景観に関する主な法令適用としては、都市計画で定める都市計画区域と用途地域のほか、保安林、農用地区域、文化財などが指定されています。

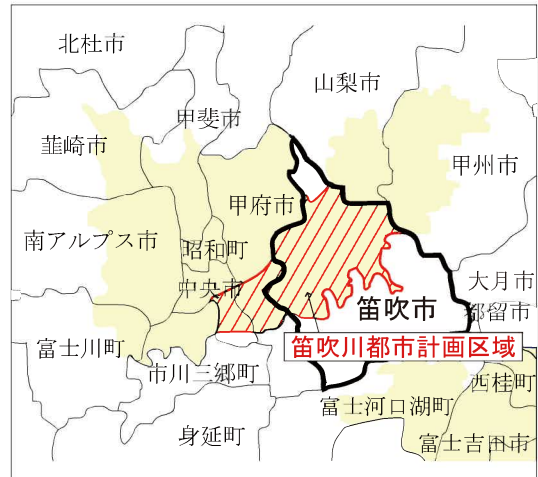
### ① 都市計画の指定状況

本市は、「峡東都市計画区域」と「東八代都市計画区域」の2つの都市計画区域に属していましたが、山梨県の都市計画区域マスタープラン策定に伴い、区域および名称の変更が行われ、平成23年4月より笛吹市の都市計画区域は全て「笛吹川都市計画区域」となりました。その総面積は11,174ha、そのうち笛吹市域が8,820haとなっています。

また、石和地区では、用途地域(面積約235ha)が指定されています。

※笛吹川都市計画区域  
 笛吹市(石和、春日居、一宮、御坂、八代、境川地区)  
 甲府市(中道地区)、中央市(豊富地区)

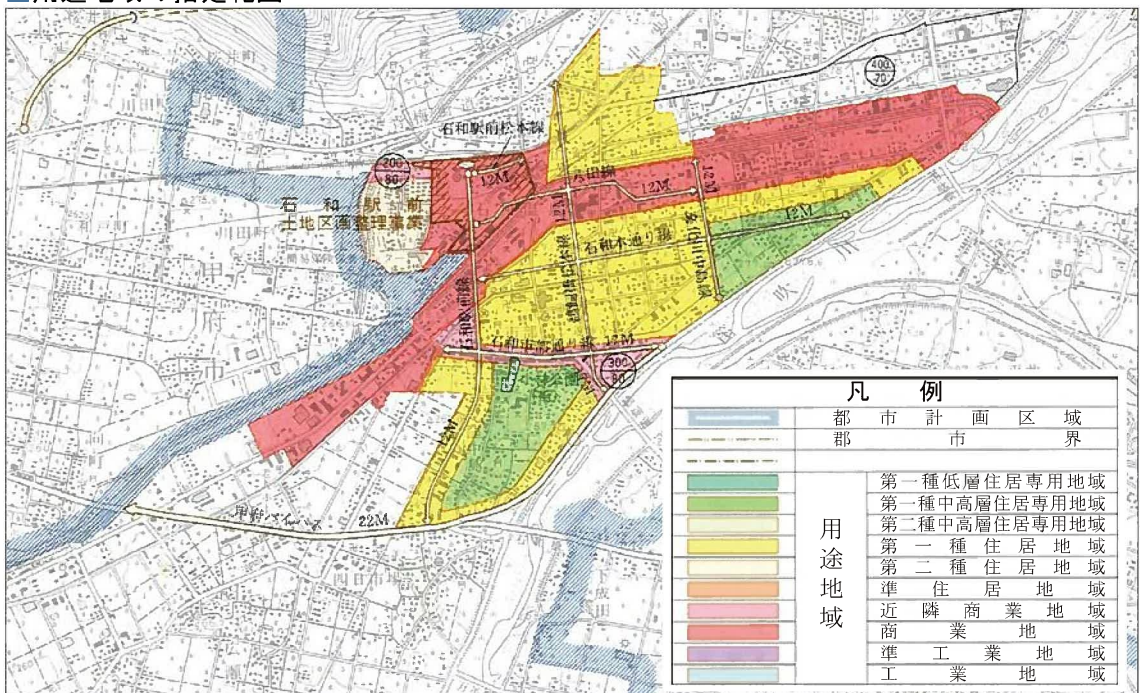
#### ■都市計画区域



#### ■用途地域の指定状況

用途地域区分	面積 (ha)	比率 (%)	(容積率/建ぺい率)
第一種中高層住居専用地域	33.0	14.0	(200/60)
第一種住居地域	98.0	41.7	(200/60)
第二種住居地域	10.0	4.3	(200/60)
近隣商業地域	13.0	5.5	(200/80, 60)
商業地域	81.0	34.5	(400/80)
計	235.0	100.0	

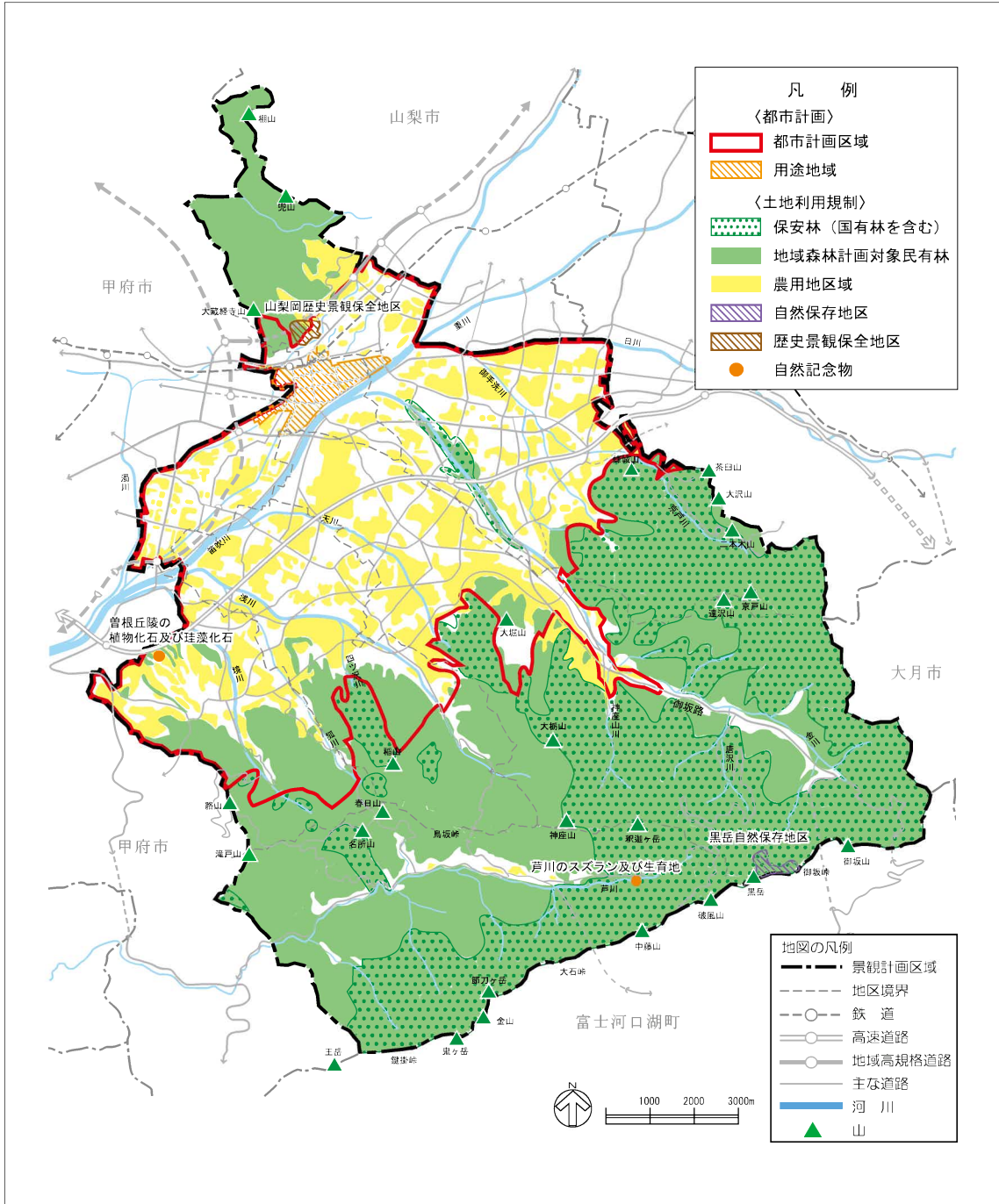
#### ■用途地域の指定範囲



## ② 土地利用規制の状況

本市の景観に関わる主な土地利用規制としては、次図に示すような農業振興地域、農用地区域、森林法に基づく保安林および地域森林計画対象民有林、山梨県自然環境保全条例に基づく自然環境保全地区\*が指定されています。

### ■土地利用規制



注) \* 本市域における自然環境保全地区としては、山梨県歴史景観保全地区(16.5ha)、芦川のニホンスズランおよび生育地(2.6ha)、黒岳自然保存地区(12ha)が指定されています。

### ③ 屋外広告物規制の状況

現在、本市における屋外広告物の表示または掲出物件の設置に関する行為については、「山梨県屋外広告物条例」(平成17年7月1日改正)に基づき規制を行っています。

山梨県屋外広告物条例では、禁止地域(第一種、第二種)、許可地域(第一種～第三種)を定め、地域の特성에あった規制を行っており、本市域においては、第一種禁止地域、第二種禁止地域、第二種許可地域、第三種許可地域の4つの地域が指定されています。しかし、条例が市民や事業者などに十分理解されていないといった問題もあり、なかなかルールが徹底されていない状況にあります。

#### ■山梨県屋外広告物条例に基づく地域区分

